

ない譯であつて、今の所謂民衆教化でも思想問題でも一切がこの勅語の御趣旨を大本とし、規範としてこれに依つて指導せらるべきであると考えます。

さうして之を解釋する所の權能は、別段に教育家が専有すべき筈のものでなく、文部省がその特權を持つて居る譯でもありません、吾々臣民に下し給ふたので、吾々臣民が誠意正心思を盡して聖旨のある所を奉戴すれば宜いので、官僚的にこの勅語は何といふ役人が解釋するのを以て正しいといふが如き、教權を賦與せられた事を知らないものである、今迄は教育勅語の解釋を、官僚的に或る者が定めたのが正しいものぢやといふ風に思ふ傾があつて、その甚しきは教育家の専有物かの如く考へて、これを楯に取つて或る思想を排斥するやうな事が往々にあつた、殊に宗教に對する態度としては教育の勅語を楯として種々なる事があつたやうに考へるのでありますが、それは誤つたことで、國民全體が誠意正心聖旨のある所を拜察してこれを遵奉すべきであつて、この勅語の解釋權が或る役人の手にあるとか、或る特別階級に屬すると思ふは不都合であらうと存じます。

又狭いといふ事に就て私は甚だ遺憾に考へるのは、それを學校教育の事のやうに思ひ成し、又學校教育に於ては、大體が唯物的の思想に傾いて居り、宗教を罵り佛敎を侮辱するのは忍ぶべしとするも、學校教育が人間の本性を啓發する所の宗教的の氣分を侮辱する時、倫理の根柢は其處に破壊されはしないか。或る識見ある外人が日本の國家主義、教育主義に對して警告を發した事がありますが、それは日本に於ては國家主義を力説するけれども、思想の根柢に唯物主義を奉じて居るが爲に、唯物的の思想に陥る時必ずや利己心に流れて犠牲の精神を失ふ、唯物的であつたならば「義は山嶽よりも重く死は鴻毛よりも輕し」といふ道念は消へ去るであらう、唯物的思想は自分の身體が生きて居つて始めて意義を持つのであつて、自己の生命を鴻毛の輕きに比しては唯物主義は成立たぬ。それ故に唯物主義を鼓吹する結果は、國家とか國民とか言ひながらそれが形式化して、忠君愛國を口にしながら徴兵に當つては、多くは泣面を